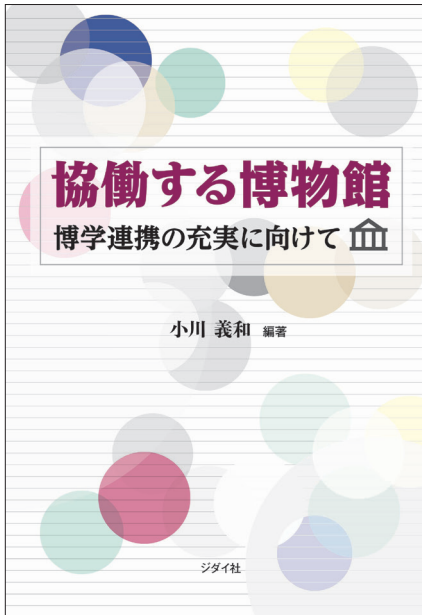


新刊
案内

協働する博物館

博学連携の充実に向けて



定価 2,268円 (本体 2,100円+税)
四六判 352ページ
ISBN978-4-909124-27-2

●編著 小川 義和

国立科学博物館連携推進・学習センター長 博士 (教育学)
専門はサイエンスコミュニケーション、科学教育、博物館教育。
生涯学習の観点から人々と科学との関係性を探っている。
平成31年度文部科学大臣表彰受賞

本書は、博物館における多様な文化の創造や継承という機能に注目し、それに関わる問題意識やリテラシーを醸成する博物館の教育機能に焦点を当てる。その際、学校等と実際に連携・協働する博物館の参考事例15編を取り上げる。具体的には、学校等との連携・協働を通じて学校教育の支援や拡張を図っている例(7編)、博物館のもつ地域文化の多様性を学校教育に還元している例(3編)、将来の地域文化の創造を担う人材の養成に工夫と努力を行っている例(5編)である。その上で、今後、博物館が自らの使命として学校教育と連携・協働するための方途を検討する。

▶新学習指導要領の実施に向けて、学校と博物館はどう連携・協働するべきか 座談会「博物館と学校が協働する意義」を収録

鳴川 哲也 (文部科学省教科調査官)・可児 光生 (美濃加茂市民ミュージアム館長)・小川 義和 (国立科学博物館連携推進・学習センター長)

1. 「社会に開かれた教育課程」と博物館／2. 理科の「見方・考え方」とは／3. 博物館だからできる学び／4. 人・物・空間という博物館の魅力／5. コンテクストを踏まえた博学連携に向けて

I部 博学連携の現在地

1章 今、求められる博学連携の在り方——3つの「C」の共有と人材育成の取り組み

2章 座談会 博物館と学校が協働する意義

II部 協働する博物館

1章 学校と博物館との連携

- ① クリエイティブな大人が増えるために——大人も子どももアクセスしやすい美術館を目指して【大原美術館】
- ② 学校教育を通じて地域の文化を伝承する——地域の博物館が学校教育に果たすべき役割とは【美幌博物館】
- ③ 本物を「見る」「さわる」って楽しい！——出前授業は博学連携の第一歩【川越市立博物館】
- ④ 科学館に中高生を呼び込め！——SSH指定校と連携した高校生スタッフの活用と事業の展開【山梨県立科学館】
- ⑤ 科学の力で高校生の主体性を引き出す——科学館の資源を生かした人材育成支援【郡山市ふれあい科学館】
- ⑥ ユニバーサルミュージアムの視点での博学連携——誰もが科学を楽しめる科学館を目指して【高知みらい科学館】
- ⑦ 特別支援学校と院内学級への教育支援——ハンディキャップのある子どもたちをもっと博物館へ！【琉球大学博物館(風樹館)】

2章 博学連携と地域

- ① 「つながり」を生かした小学校教育支援——学校へ、地域へ「つ

ながる博物館」の取り組みと挑戦【横須賀市自然・人文博物館】

- ② 市民とつくる博物館のかたちとは——市民パートナーとの協働でつくる新たな博物館活動の展開【東近江市博物館グループ】
 - ③ 博物館が連携・協働する教育普及活動の試行錯誤——学芸員と社会教育主事、司書、教員が特色を活かし合う【湧別町ふるさと館JRY・郷土館】
- ##### 3章 学校と博物館をつなぐ
- ① 博学連携で学校教育の質の向上を目指す——教員養成・研修・研究授業で動物園の資源を活用する取り組み【愛媛大学・とべ動物園】
 - ② 美術館・学校・地域が「色」でつながる——本物の美術・文化を地域に届ける取り組み【「地域の色・自分の色」実行委員会】
 - ③ 小規模博物館における連携・協働の模索——「教員のための博物館の日」の実施から得たもの【大船渡市立博物館】
 - ④ 博物館の協働による「教員のための博物館の日」——教員と博物館が出会い、その関係を育てる場所に【大阪市立自然史博物館】
 - ⑤ 「教員のための博物館の日」の実施と展開——魅力的で参加しやすいプログラムの開発と運用【鳥根県立三瓶自然館】

III部 博学連携の充実に向けて

- 1章 博学連携で博物館に求められること——博物館が取り組むカリキュラム開発を中心に
- 2章 博物館と学校の新たな連携・協働の姿——教育機能の拡充による新しい学びのデザイン

教師教育の専門誌
SYNAPSE

株式会社 ジダイ社
http://jidaisha.co.jp

〒330-0064 埼玉県さいたま市浦和区岸町4-17-1-204
TEL: 048-711-1802 FAX: 048-711-1804

好評発売中！

挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ！！

【編著】小川 義和（国立科学博物館）
五月女 賢司（吹田市立博物館）

全国には、限られた資源を活用し、利用者のニーズを踏まえて、工夫を加え、他の博物館、公民館、自治体、学校などの関係機関と連携して、地域の人々を巻き込み、地域の文化創造に取り組んでいる博物館がある。本書は、このような取組を実践し続ける博物館を「挑戦する博物館」と位置づけ、自らの博物館の弱み、強み、成果、工夫、経営、事業展開方法などを紹介し、博物館の「オモシロさ」を知ってもらうとともに、取組手法を実践者が解説することを通して博物館全体でそのノウハウを共有する。

ISBN978-4-909124-17-3 四六判320頁 定価2,160円（本体2,000円＋税）

序章 挑戦する博物館と三つの機能——変化し、見直され、
発展する博物館の姿

I部 博物館の魅力再発見

1章 地域の文化を創り、育て、継承する博物館

2章 鼎談 博物館にとって「挑戦」とは

小川義和（国立科学博物館）・五月女賢司（吹田市立博物館）
高田みちよ（高槻市立自然博物館（あくあびあ芥川））

II部 挑戦する博物館

1章 連携による挑戦—Collaboration

- ① 市民どうしの繋がりを生む くになち郷土文化館——市民参加型の博物館活動
- ② 館内制作から生まれた戦略と連携 足寄動物化石博物館——確かな制作技術にもとづく博物館活動の展開
- ③ 高槻の自然がわかるみんなの博物館を目指して あくあびあ芥川——複数NPOによる共同運営の取り組み
- ④ ふたたび蘇る篠山チルドレンズミュージアム——長期休館からの挑戦
- ⑤ 探して、迷って 平野・町ぐるみ博物館——町の有志による住民主体の博物館活動
- ⑥ なにわホネホネ団と東北遠征団——博物館で楽しみ、博物館を支え、博物館をとび出す市民サークル

2章 博物館教育の挑戦—Education

- ① まちに欠かせないミュージアムに 美濃加茂市民ミュージアム——ずっと利用される地域博物館を目指して
- ② 企業との連携とキャリア教育を目指した試み 千葉市科学フェスタの新たなねらい——都市型地域博物館の取り組み
- ③ 文理融合型のリレーワークショップ おびひろ動物園——異種館連携の取り組み
- ④ 市街地一帯が展示会場 鳴く虫と郷町の取り組み——館事業から街の事業へ

3章 利用者の視点からの挑戦—Users

- ① キッズ・ミュージアム・スクールの挑戦——異種館タッグによる博物館リレーワークショップ
- ② ロケットもタイムマシンもないけれど 蒲郡市生命の海科学館——アートの手法で科学を伝える取り組み
- ③ 博物館と利用者の関係とは？ 博物館利用者像を探る研究——PCAL i 蓄積データから得られた示唆
- ④ 博物館の思い出を残す アルバム辞典の様々な活用法——博物館の新たな楽しみ方の提案

終章 人々は博物館に何を求めているのか——博物館の三つの価値をどう捉えるか

ご注文は FAX：048-711-1804 ジダイ社まで ※合計金額が5,000円に満たない場合、送料350円を申し受けます。
もしくは、出入りの書店へご注文をお願いいたします。

連絡先	機関名：	ご担当者：
	住所：〒	
	TEL：	FAX：
	必要書類：	
番線印 (書店利用の場合)	注文冊数	ISBN978-4-909124-27-2 協働する博物館 博学連携の充実に向けて 編著：小川 義和 四六判並製 352ページ 本体2,100円
	注文冊数	ISBN978-4-909124-11-1 挑戦する博物館 今、博物館がオモシロイ！！ 編著：小川 義和・五月女 賢司 四六判並製 320ページ 本体2,000円

お問合せ 株式会社ジダイ社 担当：佐々木まで（TEL：048-711-1802）